

教科(科目)	世界史セミナー	単位数	3	学年(コース)	3学年(教養コース選択)
使用教科書	『明解世界史A』(帝国書院) 『新選日本史B』(東京書籍)				
副教材	『ダイアログ世界史図表(新版五訂)』『最新日本史図表』(第一学習社)				

1 科目のねらい

自然環境と人類のかかわりについて、歴史的事例を地理的視点から取り上げることで考察・検証し、自然と人間との関係に対する関心や探究心を向上させる。また、日本の歴史と世界の歴史のつながりについて歴史的事例を取り上げ、これまで学習した内容をより一層深めるとともに主体的探究活動を行う。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期	1. 世界地図から見る世界史(6) ①世界地図の作成 ②大航海時代のコロンブスを事例とする海洋と風に関する考察 ③日本と異なる気候帯に住む人々の生活実態の調査	2 学期	5. 日本とイスラーム世界との歴史的関係の考察(14) ①日本とイスラーム世界との関係について課題設定と調査 ②日本とイスラーム世界との歴史的関係の考察 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表
	2. 日本と中国の歴史的関係の考察(17) ①日本と中国との関係について課題設定及び調査 ②日本と中国との歴史的関係の考察 朝貢と冊封、日中戦争 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表		6. 日本と東南アジア諸国の歴史的関係の考察(10) ①日本と東南アジア諸国との関係について課題設定及び調査 ②日本と東南アジア諸国との歴史的関係の考察 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表
2 学期	3. 日本と朝鮮半島との歴史的関係の考察(10) ①朝鮮半島と日本の関係について課題設定及び調査 ②日本と朝鮮半島との歴史的関係の考察 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表	3 学期	7. グローバル化について(27) ①「環境問題」「南北問題・経済格差」「食料・人口問題」「資源エネルギー問題」などから課題設定及び調査 ②設定した課題の歴史的考察 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表
	4. 日本とヨーロッパとの歴史的関係の考察(21) ①日本とアメリカとの関係について課題の設定及び調査 ②日本とヨーロッパとの関係について課題の設定及び調査 ③探究課題の設定とレポート作成及び発表		

合計105時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
それぞれの課題に対し、主体的に適切な課題を設定し、意欲的に探究活動を行うことができる。 日本国民としての自覚を高め、国際社会に主体的に生きようと考えることができる。	日本と世界の国々との歴史的な関係や生活・文化の地域的特色を国際的視野をもって考察し、国際社会を主体的かつ公正に判断し、考察した結果を適切に表現している。	歴史的な事象に関する資料をインターネットや書籍等の文献などから収集し、適切な情報を選択し活用している。	日本と世界の歴史的関係性や、それぞれの課題を理解し、その知識を身に付けることができる。
中間考査と期末考査の成績、レポートなどの提出物、発表などの学習への主体的な取り組み方などで評価します。			

4 教科から一言

これまで身に付けてきた世界史に関する基本的知識を再確認するとともに、主体的に探究課題を設定し、自ら考え、解決法を導き出す姿勢を身に付けてほしいです。また、自らまとめ、発表することを通じて、自己の成長につなげてほしいです。

教科(科目)	政治・経済	単位数	2	学年(コース)	3学年(教養コース選択)
使用教科書	『高等学校 現代政治・経済 新訂版』(清水書院)				
副教材	『政治・経済資料集2023』(清水書院)				

1 科目のねらい

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせる。
 ・現代における政治、経済、国際関係について客観的に理解させる。
 ・現代における政治、経済、国際関係に関する諸課題について、主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1学期中間 考查	第1章 民主政治の基本原則 1 政治とはなにか (1) 2 法とはなにか (1) 3 近代民主政治の発展 (1) 4 現代民主政治の展開 (1) 5 政治制度と現代の世界 (1) 第2章 日本国憲法と民主主義 1 日本国憲法制定までの道のり (1) 2 日本国憲法の基本的性格 (1) 第3章 日本国憲法と平和主義 1 平和主義思想の系譜 (1) 2 日本の防衛政策と自衛隊 (1) 3 日本の安全保障政策と国際協力 (1)	2学期 期末 考查	第2章 金融と財政のしくみ 1 金融のしくみとはたらき (2) 2 財政のしくみとはたらき (2) 第3章 日本経済のあゆみと現状 1 戦後復興と高度成長 (2) 2 石油危機とバブル経済 (2) 3 バブル崩壊と失われた20年 (1) 第4章 福祉の向上と日本経済の課題 1 労働基本権と労働運動 (1) 2 今日の雇用問題と労働条件 (1) 3 社会保障の成立と進展 (1) 4 中小企業の現状と問題 (1) 5 環境をめぐる問題 (1) 6 消費者をめぐる問題 (1) 7 農業をめぐる問題 (1)
1学期 期末 考查	第4章 日本国憲法と人権保障 1 人権保障の基本原則 (1) 2 自由権的基本権 (1) 3 法の下での平等 (1) 4 社会権的基本権・参政権と請求権 (1) 5 新しい人権・人権をめぐる新たなうごき (1) 第5章 日本の政治機構 1 国会のしくみと機能 (1) 2 内閣のしくみと機能 (1) 3 裁判所のしくみと機能 (1) 4 地方自治 (1) 第6章 現代の日本政治 1 行政機能の拡大・政党政治 (1) 2 選挙制度 (1) 3 現代民主政治の課題 (1)	学年 末 考查	第5章 世界経済と日本 1 国際分業と貿易の利益 (1) 2 外国為替と国際収支のしくみ (1) 3 グローバル化の進展と国際経済 (1) 4 アジア経済と南北問題 (1) 5 環境と人口 地球の持続可能性をめぐる問題 (1) 6 国際経済における日本の役割 (1) 第1章 現代日本の政治や経済の諸課題 1 18歳選挙権から考える政治とはなにか? (1) 2 社会保障制度は維持可能か? (1) 3 地域共同体は変貌する地域社会に対応できるか? (1) 4 働くとはどういうことなのか (1) 5 日本は格差のある社会なのか? (1) 6 グローバル化する中小企業は世界で勝てるか? (1) 7 日本の農業に未来はあるか? (1) 第2章 国際社会の政治や経済の諸課題 8 リスクのある社会とは? (1) 9 パリ協定で世界の温暖化対策はすすむのか? (1) 10 「援助」は途上国のためになっているか? (1) 11 人種・民族問題に解決はあるか? (1) 12 国際社会における今の日本の役割とは? (1)
2学期 中間 考查	第7章 国際政治と日本 1 国際社会の形成と国際法 (2) 2 国際連合と国際協力 (1) 3 国際政治の動向 (1) 4 核兵器と軍備管理・軍備縮小 (1) 5 国際社会における日本 (1) 第1章 現代の経済のしくみと特質 1 経済活動の基本概念 (1) 2 経済活動の主体 (1) 3 市場経済の機能と限界 (1) 4 企業の役割 (1) 5 経済活動の計測とGDP (1) 6 経済成長と景気変動 (1) 7 物価のうごき (1) 8 市場経済にいたる経済体制の変容 (1)		

合計時間70時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 の技能	④知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につけている。

観点①～④をふまえ、定期考查(年間5回)、提出物(授業中の確認テスト、プリント類、ノート)、出席状況、授業中の意欲・態度から総合的に評価します。

4 教科から一言

政治・経済はわれわれ国民が政治・経済・国際社会の現状と諸問題・諸課題を理解するための大切な教科です。それらのことを学び自らも調べて、発表することを通してこれからの社会を生きていくための知識や対応策などを考えていかなければなりません。

そこで、多くの事柄に関心を持って多くのことを調べ、そして考えてみましょう。将来の社会人として確かな知識と態度を身に付けるように努力をしてみてください。

教科(科目)	日本史B	単位数	4	学年(コース)	3 学年
使用教科書	『新選日本史B』(東京書籍)				
副教材	『最新日本史図表』(第一学習社)				

1 科目のねらい

我が国の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力をつちかい、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期 中間 考查	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1. 原始社会の生活と文化 1 更新世の日本(2) 2 縄文文化(2) 2. 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 1 弥生文化と小国家の形成(2) 2 大和王権と古墳文化(2) 3. 律令国家の形成と古代文化の展開 1 飛鳥の朝廷と文化(2) 3 平城京と天平文化(2) 2 律令国家の成立と白鳳文化(2) 4. 摂関政治と文化の和様化 1 平安遷都と唐風文化(2) 3 国風文化(2) 2 貴族社会と摂関政治(2)	中間 考查	4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 1 幕藩体制の動揺と政治改革(2) 3 新しい学問の形成と化政文化(1) 2 幕藩体制の危機(2) 第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 1. 開国から明治維新へ 1 開国(2) 4 近代国家をめざして(2) 2 幕府の滅亡(2) 5 殖産興業と文明開化(2) 3 統一国家の成立(2) 6 明治初期の国際情勢(2)
	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 1. 中世社会の成立 1 院政と荘園(1) 4 執権による政治(2) 2 平氏政権の登場(2) 5 元寇と社会の変貌(1) 3 鎌倉幕府の誕生(2) 6 鎌倉の仏教と文化(2) 2. 武家社会の形成と東アジア 1 室町幕府の創設(2) 3 下剋上の社会と戦国大名(2) 2 倭寇と東アジアの交易(2) 4 室町文化(2)		2 学期 期末 考查
1 学期 期末 考查	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1. ヨーロッパ文化の接触と国内統一 1 ヨーロッパ文化との接触(2) 3 桃山文化(2) 2 織豊政権による全国統一(2)	学年 末 考查	5. 激動する世界と日本 1 揺れ動く経済と中国侵略の本格化(3) 2 日中戦争と国内体制の改編(3) 3 太平洋戦争(4)
	2 幕藩体制の成立 1 江戸幕府と大名・朝廷(2) 3 キリスト教禁止と鎖国(2) 2 身分制度の確立(2) 3. 近世社会の発達と町人文化 1 幕府政治の進展(2) 3 学問の新傾向と元禄文化(1) 2 経済と産業の発達(2)		第5章 現代の世界と日本 1. 占領と国内改革 1 占領と日本国憲法の成立(4) 2 冷戦の開始と経済復興(3) 2. 国際社会への復帰と高度経済成長 1 国際社会への復帰と対米協調(3) 2 経済の高度成長(4) 3. 石油ショックと低成長の時代 1 1970年代の国際社会と日本(3) 2 安定成長への転換(3) 4. 新しい国際秩序と日本の課題 1 激変する世界と日本(3) 2 停滞する日本経済と成長するアジア(3)
2 学期			

合計140時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
歴史的現象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組むことができる。現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けることができる。	日本の歴史から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的に考察している。歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断している。課題についての考察の過程を、適切な方法で効果的に表現することができる。	日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができる。得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けることができる。	基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解している。日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解している。
以上の観点を踏まえ、1. 定期考查 2. 提出物(板書ノート・プリントなど) 3. 授業に対する意欲、態度 4. 出席状況などから、総合的に評価します。			

4 教科から一言

日本史Bは政治だけでなく社会や文化の面でも深く追究していく必要があります。そのためそれぞれの分野ごと(政治・社会・文化など)にまとめる形で学習していくと効率よく習得することができます。分からないことがあったらそのままにせず、積極的に質問してください。